

第7回日本在宅医療連合学会大会への参加報告

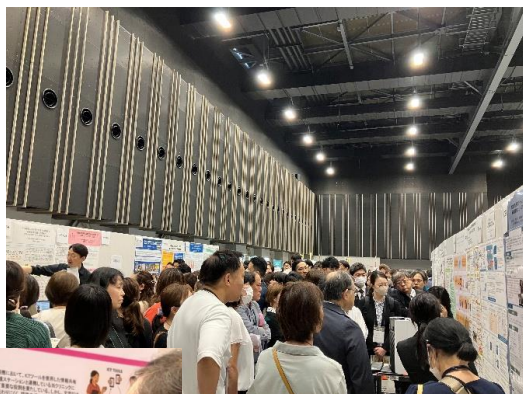


▶ 2025年6月14日～15日

▶ 出島メッセ長崎

——「在宅医療の未来を語ろう」——

▶ これまで、団塊の世代が75歳の後期高齢者となる2025年に備え、「地域包括ケアシステム」の構築が推進され、在宅医療はその中心として重要な役割を果たしてきました。2025年度以降も75歳以上の人口は引き続き増加し、医療と介護の複合ニーズを持つ者が一層多くなります。そして、全国での在宅患者数は、2040年以降にピークを迎えるの見込まれています。しかしながら、支え手である現役人口は大幅に減少し、厳しい人材不足に直面するでしょう。この厳しい局面を乗り越えるためには確固としたビジョンと対策を作ることが望まれます。今大会では、2025年までの在宅医療を総括し、来るべき2040年への道標を示されました



- 発表演題
「施設療養患者のナルフラフィンによるせん妄に他職種連携により早期発見できた一例」
- 在宅患者さんは、多くの他職種との連携によって日々の生活が支えられています
- 在宅訪問薬剤師も、Drや看護師さんなどの医療職をはじめ、ケアマネジャーさん・ヘルパーさんなど介護職の方々とさまざまな情報共有を行ないながら、患者さんの薬物療法に寄与しています
- 質疑応答では、医師から多職種連携による早期発見と迅速な対応について評価をいただき「在宅医療において腎機能が低い患者さんのせん妄原因特定は難しく迷うことが多いため良い症例だ」とのコメントもいただきました。今後も積極的に在宅患者さんに関わってまいります！

発表演題

「施設療養患者のナルフラフィンによるせん妄に他職種連携により早期発見できた一例」